

## 「文化会館等施設についての地域説明会」開催概要

2018/09 管財課公共施設マネジメント推進室

「公共施設マネジメント実行計画」の先導的モデル事業として庁内で集約化等の手法について検討を行ってきた文化会館等3施設についての市の考え方を、市民の皆さんに説明のうえ意見を伺うことを目的として各地域で説明会を行いました。その結果概要について以下のとおり報告いたします。

### 【各会場開催概要（共通事項）】

- 市長あいさつ
- 説明事項
  - ✚ 公共施設マネジメントについて
  - ✚ 文化会館等施設の方向性について
- 質疑応答・意見交換

### ≪日光地域≫

- ◆ 開催日時：平成30年8月30日（木） 18時00分～19時30分
- ◆ 会場：日光霧降スケートセンター 団体休憩室
- ◆ 参集者（通知発送者）：日光地域自治会長、観光・文化・商業関係団体の長 等（68団体）
- ◆ 出席者：市民等関係者 42名／議員出席者 8名／記者 1名
- ◆ 主な質疑応答・意見（※全ての質疑応答・意見を内容の傾向ごとに要約しています。）

（質疑応答）

**Q1**：廃止という方向性が決まってから説明というのはおかしいのではないか。廃止についての議論自体をする必要があるのではないか。（類似質問 他2件）

**A1**：決して、決定事項として説明している訳ではない。まずは市の考え方はこうですというところをお示し、説明した上で、色々ご意見を伺いながら進めたいと考えている。

**Q2**：説明会は今回の対象者（自治会長や関係団体の長）だけでは足りないのではないか、これで説明会は終わりなのか。（類似意見 他2件）

**A2**：今回は市の考え方を市民の皆さんにご説明する初めての機会ということで、まずは対象を自治会長さんや関係団体の長の皆さんに絞らせていただいた。今後、対象規模を拡大した形での説明会の開催や広報等、周知方法を駆使しながら、一人でも多くの市民の皆さんの意見を吸い上げ進めていきたい。

**Q3**：文化会館の会議棟は残すのか。残さないとすれば避難所はどうなるのか。

**A3**：会議棟部分だけ残すことは考えていない。現在会議棟を利用して行っている部分については、日光行政センター（公民館）、交流促進センターや日光体育館等を代替施設として考えている。また、避難所については、一つの方法として、近隣の民間ホテル・旅館等と協定を結ばせていただいて、そこに避難していただくということを考えており、今後並行して、旅館組合等関係機関と協議調整を行っていきたい。

**Q4**：財源を市単費だけで考えずに、国・県等の予算も活用して、国際観光都市日光に相応しい施設を造ってお客を呼ぶといった大きな視野で考えてほしい。

**A4**：国の補助金等で大きな施設を整備したとしても、造る時よりもその後に維持するお金の方がたくさん必要になる。そのたくさんの施設維持にかかるお金を払っていくのは、私達市民であり、更には、将来世代が払っていくことになる。本当に市民が必要とするものを今、私達は考えて造って、次の世代に譲っていかなければならないと思っている。

(ご意見)

- 老朽化やコストの面等を勘案すると、施設廃止は止むを得ないと感じるところではあるが、小規模な施設で良いので代替施設を検討してほしい。(類似意見 他2件)
- 今後、学校の統廃合が進むなかで、廃校後の学校体育館等をホール・会議室の代替になるよう改修等を検討してほしい。
- 壊すことだけが決まって、跡地をどうするのかというビジョンが示されないと住民は不安である。民間の発想を含めて活用を検討するという話であれば、早急に検討を進めてほしい。(類似意見 他1件)

## ≪藤原地域≫

- ◆ 開催日時：平成30年9月1日(土) 13時30分～14時50分
- ◆ 会場：藤原行政センター(藤原公民館会議室)
- ◆ 参集者(通知発送者)：藤原地域自治会長、観光・文化・商業関係団体の長等(54団体)
- ◆ 出席者：市民等27名/議員出席者3名/記者1名
- ◆ 主な質疑応答・意見(※全ての質疑応答・意見を内容の傾向ごとに要約しています。)

(質疑応答)

**Q1**：5月の自治会長会議でも、地域懇話会の場でも文化会館の説明はなかった。今回の唐突に文化会館を廃止するという説明は住民軽視のように思えるが。

**A1**：5月の自治会長会、地域懇話会の時点では、まだ政策的なことが決定していない状況だったので、説明が出来なかったということでご理解いただきたい。

公共施設マネジメントをしっかりとやっていかないと、これから日光市はやっていけないというのは選挙戦の中でも声を大にして訴えてきたつもりである。

市長就任後、公共施設マネジメントの中でも特に代表的なものとして、文化会館の統合について早急に進める必要があると考え、市としての考えをまとめたので、まずはその考えを聞いていただいて、皆さんの意見を聴き取るというのが、今日の集まりの目的である。

**Q2**：日光も鬼怒川も知名度があり、他の市とは異なる。また文化会館の成り立ち、果たしてきた役割等を分かったうえでの判断なのか、老朽化し、未耐震だから、コストがかかるからという理由で廃止というのはあまりに単純・短絡的な発想なのではないか。

**A2**：歴史的な文化会館の価値、経緯について、地域が隆盛な時代に集客のために寄与してきた施設であることは十分認識し、評価、理解している。その上で、社会全体の状況も変わり、施設の果たす役割・形態も変わってきた等の要因もあり、現状では非常に少ない利用度になっている。利用度というところはどうしても大きな判断材料にはなってくる。利用度やコスト等を相対的・総合的に判断したうえでの検討結果である。

**Q3**：文化会館施設に併設されている観光情報センターも解体の対象なのか。(類似質問1件)

**A3**：建物全てということで、情報センターについても、今のところ取り壊しの対象として考えているが、跡地の利活用というところで、民間の発想提案を求めるなかで、情報発信センター機能を位置付けることも可能だし、もしくは少し違う場所ということも方法論としてはある。いずれにしても何らかの形で代替措置を講じていきたい。

ただ、仮に文化会館を解体した跡地に、市が建物等を整備することは考えていない。なるべく、市では皆さんの税金は使わないで、民間の方に建ててもらって、そこに部分的に要望することに関して、部分的にお金を出して行くということはあるが、基本的に、市が全額お金を出して何かハコモノを造ろうということとは考えていない。

**Q 4** : 説明を聞いたうえで、これ以上コストがかかる、また税金が高くなるような施設については正直無くした方が良くと思うが、利用率を上げるためのPR・周知が不足していたのではないか。また大ホールを保有するホテル旅館を利用している方も多い、なぜホテル旅館を利用して、文化会館の方を利用しなかったのかという理由等について検証したことがあるか。

**A 4** : 藤原文化会館については、老朽化や未耐震ということで、なかなか積極的にPR出来なかったというところも事実だと思う。

文化会館を利用せずホテルや旅館を利用するという部分については、これだけ受け皿となるホールや会議機能を有した多くのホテル旅館があるのは、他の地域にはなく、鬼怒川、川治温泉特有の財産、地域の宝であると捉えている。このため、逆の発想として、ホテル、旅館さんを公的な行事等の代替施設として利用させていただくことも一つの方法として考えているところであり、今後旅館組合さん等関係機関と具体的な協議調整を進めていきたい。実現すれば、地域としてのPRにも繋がるかもしれないと考えている。

**Q 5** : これだけの多くの民間施設があるなかで、大きな災害が起きた場合の収容場所、避難場所としてもホテルを使うことができるかどうかの検討をしてもらいたい。(類似意見1件)

**A 5** : 避難所については、一つの方法として、近隣の民間ホテル・旅館等と協定を結ばせていただいて、そこに避難していただくということを考えており、今後並行して、旅館組合等関係機関と協議調整を行っていきたい。